学際・総合的アプローチから安全・安心を考える

関西学院大学総合政策学部教授
人と防災未来センター上級研究員
室崎 益輝

今日、お話しすること

- なぜ、学際的・総合的アプローチなのか?
- 総合的アプローチで、防災がどう変わるのか?

1. 総合的アプローチとは？

- 総合的アプローチとは、問題の解決あるいは目的の達成をはかるという実践的立場から、
  - （1）全体的視野にたって考える
    - 総体、大局、俯瞰
  - （2）個別的な資源や知見の再構成をはかる
    - 統合、補完、包摂
  - （3）新たなフレームやアプローチを見出す
    - 融合、横断、発見

  こと。

2.総合的アプローチの必要性

- なぜ今、学際的・総合的アプローチなのか？
  - ・・災害の実態が、あらたな視点や方法＝総合的アプローチ、を求めている。

災害現象の特質

- 対策の対象としての災害そのものが、総合的・複合的な現象である以上、その反映としての対策も総合的なものとなる。(自然現象を捉える科学が自然科学とすれば、複合現象を捉える科学は複合科学でなければならない)

(1)災害を、天災か人災かではなく、天災的部分と人災的部分が複合したものとして捉える。

(2)災害を受けるのも人間、災害を起こすのも人間、そしてなによりも災害を防ぐのも人間。

リスクの変容と総合化

- 災害は、そもそも総合的な現象であるが、その総合性や複合性の度合いが、現代ではより著しく増大している。
- 発生メカニズムおよび被災のメカニズムは、近代化、都市化、国際化、情報化などの流れの中で、多様化し、複雑化し、社会化している。
- 多様災害の時代、巨大災害の時代、複合災害の時代の到来が、防災の総合化を要請している。

巨大災害と総合化

- 巨大災害は、減災という考え方による、対策の足し算という総合化を求めている。
  - （1）時間の足し算
  - （2）空間の足し算
  - （3）人間の足し算
  - （4）手段の足し算

ここでは、補完あるいは統合という総合化が求められる。

多様災害と総合化

- 多様災害（マルチハザード）は、縦割り的発想ではない、横つなぎ的発想による総合化を求めている。
  - （1）公衆衛生的対応
  - （2）一元管理的対応

ここでは、融合あるいは横断という総合化が求められる。

複合災害と総合化

- 複合災害は、災害に係る社会連鎖を断つために、被災基盤の解消をはかる総合化を求めている。
  （1）環境や構造の改善
  （2）生活や発想の改善

  ここでは、大局あるいは総体といった総合化が求められる。

3.総合的アプローチが生みだすもの

- 総合的アプローチによって、防災は減災に進化し、さらには「安全安心」に昇華する。

  安全安心は総合化概念の産物

- 安全安心は、危機管理、環境持続、生活規範、地域密着、自律連携という総合的アプローチによりもたらされる。

危機管理による安全安心

- マネージメントによる総合化

  被害軽減という目的が効果的に達成されるかどうかの視点から、対策相互の関連性を明らかにして、減災対策の全体像を組み立てる。

環境持続による安全安心

- 地球環境や歴史文化、さらには地域経済などの持続的発展に留意して、総合化をはかる。自然との共生、文化との融合などを安全の課題として位置づける。

生活規範による安全安心

- 日常的な生活に密着する形で、暮らしの安全や安心を考える。安全安心という視点から、ライフスタイルのあり方を問い直す。暮らしの文化、あるいは住まいの文化として総合化をはかる。

地域密着による安全安心

- 地域の実情や地域との関わりに即して、総合化をはかる。地域の資源を生かす、地域のエネルギーを引き出す。地域コミュニティや地域文化を大切にする。

自律連携による安全安心

- あるべき人間の関係性に着目して、総合化をはかる。みんなで創り、みんなで支えるパートナーシップを大切にする。「自助、互助、共助、公助」の関係性を構築する。

4.総合的アプローチが求めるもの

- 安全安心をうみだす総合的アプローチには、科学、法制、組織の革新が欠かせない。
  - (1)総合化のための科学
    - 減災学や復興学などの融合型の新しい科学
  - (2)総合化のための法制
    - 包括性、体系性、規範性などを持った法制度
  - (3)総合化のための組織
    - 有機的な統合や連携を可能とする運動組織